



国民の森林・国有林

## 地域管理経営計画等の策定及び変更に係る 有識者懇談会を開催

### 7森林計画区の樹立・2森林計画区の変更に対する意見を聴取



オンライン方式による開催



有識者懇談会の様子

計画案の修正を  
求める意見はなく、  
計画案は了承され  
3月26日に公表し  
ました。  
計画の詳細につき  
まは、九州森林  
管理局のホームページ  
をご覧ください。  
(担当：計画課)

「国有林野の管理経営に関する法律」等に基づき、地域管理経営計画及び国有林野実施計画策定等に係る有識者懇談会を、3月2日に開催しました。

冒頭、小島孝文九州森林管  
理局長より、「今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により木材価格の下落が起るとともに、7月豪雨や台風9号10号により九州各地において甚大な被害が発生した。このような状況の中、国民からは、災害に強い森づくりや国民の安心・安全を確保するための治山事業の着実な実施、自然環境の保全やレクリエーションの場の提供、再生可能な資源である木材の活用などに対して関心が高まっている

ところ。当局としては様々な課題に向き合いながら、地域に根ざした存在として国有林関係者と連携しつつ、林業・木材産業の成長産業化や地域の発展に貢献していきたい。国有林のよりよい管理経営になるよう、忌憚のないご意見をいただきたい」との挨拶がありました。

委員からは、面的複層林の考え方や誘導にあたっての課題、溪畔林の今後の取扱い等についてご意見をいただきました。その後、「コロナ禍における国有林材の供給調整の取組について」及び「森林・林業基本計画の変更について」情報を提供しました。

# 令和2年度第4回国有林材供給調整検討委員会を開催

3月11日に、本年度第4回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

それぞれの専門分野からの意見を述べあい、「コロナ禍における今後の木材需要は先行き不透明で地域や業種により違いがあり、国産材の需要動向や民有林からの供給、輸入材の動向など地域ごとの状況も踏まえて慎重に対応する必要があります。このため、国有林からの出材により供給過剰となり、原木価格の大幅な下

落につながることをないよう慎重に供給調整を行いつつ、地域の状況を踏まえた計画的な国有林材の供給に取り組み必要がある。」との検討結果となりました。

各委員からの主な意見は次のとおりです。

## 【主な意見】

○合板の不足は解消されたが、原材料の不足が露呈してきている。本州の合板工場は輸入材を使っており、一番厳しいのはベイマツであり、全く入ってこない状況から国産材にシフトしてきている。一部のプレカット工場の話では、今まで構造物もベイマツに頼っているところが価格に関係なくオーダーはしているが入ってこないというところで、急遽国産ヒノキのKD材を買いに走っているがそれでも足りていない。

## 挨拶される小島局長

今後国産材にシフトしてくる業者は、どこまで国産材で対応出来るのかを一番心配していると思われる。

○チップ用原木の在庫は入って来るものは止めないという形で対応しており、かなり在庫量が増えているところ、今年度上期の豪雨等による影響で入荷量が減り、在庫自体は適正在庫になってきている。

ただ、一部地域においては原木が足りないという声も聞かされている。今後の在庫に関しては、中国が旺盛に輸入しており、輸出が好調であることから、チップ用原木の集荷は不安である。

原木購入については、一部業者について立木在庫が少なくと聞いています。民有林も規制の強化等もあり、足りていない様子。国有林の立木公売をお願いしたいと思っている。

○輸入材の入荷が少なくなってきたが、九州は国産材のシェアが高い市場であり、もともと輸入材に頼っておらず影響は少ない感じがするが、輸入材の比率が高い関東・関西からの問い合わせが最近増

えてきた。スギの出番になってきているが、どこまで国産材で代替需要に対応できるかということが業界に問われていると思われる。

一方で非住宅、公共物件を中心に木造化の流れは感じている。地球温暖化防止という点からも木材を使うという動きにつながっている。

国産材需要拡大の減多になりつつあり、それに伴った国有林の供給を考えていた

だきたい。供給調整は必要ないどころか前倒し供給して欲しいくらいと考えている。



検討委員会の様子

○製品についてはKD材を中心に、6月まで注文が入っている状況にある。大都市圏での輸入材の減少による影響で、価格を上げても製品が欲しいという現状。原木は市場の出力量が増えてこそ、輸出向けのB・C材を中心に引き合いが強くなるが、引き続き続いている。

大手の素材生産業者で国有林の立木販売により仕入れを行っているところは、昨年1年で在庫を極端に減らしていると聞いているが、その大半は大型工場に直送する形をとっているため、市場の相場を下げる要因にはなっていないと思われる。

このようなかで国産材の供給をしっかりと行っていないと、せっかく国産材のシェアを広げるチャンスに対応することが出来なくなってしまうので、国有林の立木販売を増やしていただきたい。

○スギに関しては、ラミナ需要が復活しており増産傾向にある。合板に関しては、特にヒノキの引き合いが強くなっており、ヒノキ価格の下支えになっている。

輸出材では、ヒノキの注文のみならず、スギについても



韓国の製材工場からアメリカ向けのフェンス材の輸出用に関わり合いが増えてきている。背景にはアメリカが中国から輸入できない現状が続いていることから、その代わりとして韓国から調達したい様子である。

製品については、輸入SPFの高騰を受けたこと、またフェンス用材として2×4サイズも非常に引き合いが強い状況にある。

これまで以上に、ラミナ、合板、輸出、バイオマス材など新しい需要が伸びている状況である。

国産材は素材の安定供給源であるので、今後も安定した供給をお願いしたい。

○地元では、昨年から民有



挨拶される遠藤委員長

林の立木販売が出てこない。生産森林組合の材も出てこない状況。昨年の7月豪雨があり、8月以降もその状況のまま年を超えた状況である。

現在、環境問題無くしては森林は語れなくなってきているが、再造林を山主さんができる訳がなく、素材生産業者がやらなくてはいけない状況となっている。環境問題が非常に重くなってきており、木材業界の問題となりつつあり、認定事業体として頑張っていくが、その他の事業体も含めて対応していなければならぬと考える。

県南では国有林の立木販売を出して欲しいという声が多くあり、地域差が出てきているところである。

○市場での売れ行きというのは、全体的に中目材を中心に引き合いが強いが、製品の価格は上がっており、A材は売りづらい状況にある。また、他の委員の意見にあるように輸出が好調であり、B・C材に加え小径木も港に流れており、B材では12000円近くの値を付けており、A材の価格が12500円程度なので、市場での価格がA・C材ではば変わらぬという状況までできている。最近の市場では輸出材を扱



国有林材供給調整検討委員会の様子

う商社の参加も多く、C材を中心に量が足りなければB材まで買っていくという傾向にある。また、合板用についてはヒノキの引き合いが強く、価格も強くなっている。相場動向としては製品価格が上がっていないため、A材の価格がいまひとつ上がりきれておらず、それに反してB・C材が上がっている状況。

※本検討委員会は、九州森林管理局ホームページの注目情報「九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について」からご覧いただけます。

(担当) 地域木材情報分析官

# 「国有林間伐・再造林推進コンクール表彰式」

令和2年度国有林間伐・再造林推進コンクールの表彰式を九州森林管理局で行いました。

本コンクールは、国有林野事業で実施した間伐、主伐・再造林及び

立木販売において、法令の遵守、安全の確保

及び担い手の育成に積極的取り組みととも

に、高い生産性を達成した優れた

事例を表彰するものです。

今年度は、

四家造林有

限会社(宮

崎県御池市)

が実施した

事例が林野

庁長官表彰の最優秀賞

を受賞、木城林産株式会社(宮崎県児湯郡木城町)が林野庁長官表彰の優秀賞を受賞されました。また、有限会社秋吉林業(熊本県菊池市)、有限会社和田木材(宮崎県小



表彰を受けられた皆さんと小島局長他関係職員

林市)が実施した2事例が九州森林管理局長表彰の優秀賞を受賞されました。

今年度の受賞のポイントとしては、長官表彰最優秀賞に輝いた四家造林有限会社の事例は、「分散した小型重機の適正配置により、林地保全と作業の効率化によるコスト削減の実現」が高く評価されたものであり、長官表彰優秀賞に輝いた木城林産株式会社事例は、「大型ドローンを活用した架設作業の効率化」が高く評価されたものです。また、局長表彰を受賞された2事例については、「既設の高密度路網を活用し、生産性の向上と作業コストの縮減」、「高性能林業機械を活用した集材から極積みまでの無駄のない作業工程」などがそれぞれ高く評価されたものです。

表彰式終了後には、生産性の向上や再造林コストの縮減等について受賞者からの貴重な意見を伺い、今後の事業に役立てるために意見交換会を実施しました。

九州森林管理局のホームページに各受賞事例の概要を公表し、民有林を含めた九州一円への普及、推進を図っていくこととしています。

(担当＝資源活用課)

## 人のうごき

### ☆3月31日付退職

岩本清文【総務課】

山崎 武【森林整備課】

岡田有祐【北薩署】

### ☆3月31日付異動(退職)

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場長

宮 俊輔【沖繩署長】

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター北海道育種場長

川戸英騎【中部局森林整備

部長】

総務企画部長

育種センター九州育種場連絡調整課連絡調整係長

川部美奈子【経理課】

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場連絡調整課

緒方琴音【北薩署】

うきは市

中嶋丈貴【計画課】

☆4月1日付異動

業務管理官

川戸英騎【中部局森林整備

部長】

総務企画部長

岩井広樹【林野庁林政部長

政課管理官】

政課保全部長

山根則彦【林野庁森林整備

部研究指導課森林保護対策室

長】

森林整備部長

大道一浩【林野庁林政部林

政課広報官】

林野庁国有林野部経営企画課

国有林野総合利用推進室長

井口真輝【計画保全部長】

中部局岐阜森林管理署長

久保芳文【森林整備部長】

近畿中国局島根森林管理署長

津田京子【佐賀署長】

東北局山形森林管理署長

益田健太【大分西部署長】

林野庁林政部林政課管理官

成瀬昌弘【企画調整課長】

佐賀森林管理署長

白石健二【林野庁国有林野

部管理課課長補佐(安全衛生

担当)】

長崎森林管理署長

高木 敏【関東局天竜森林

管理署長】

大分西部森林管理署長

津脇晋嗣【林野庁国有林野

部業務課企画官(災害対策担

当)】

で、国土を保全し、貴重な森

林生態系を有し、林産物や観

光資源を提供し、地域の安全・

安心な暮らしや振興の場を提

供する国有林を経営・管理す

る私たちの職場の役割はま

ます大きくなっていくもの

と思います。

新型コロナウイルスをき

かけとして働き方も大きく変

わっていくことになると思

いますが、これからの職員の皆

様方の益々の御活躍とご健勝・

ご多幸を祈念し、挨拶とさせ

ていただきます。どうも有り

難うございました。

いつまでも国有林



## ◇退任挨拶◇お世話になりました

令和3年3月31日付けで定年退職しました。林野庁入庁時には遙か先のことだと思っていた定年ですが、いつの間にか来てしまい、年月の流れの速さをつくづく感じています。この間、林野庁、北海道

東北、関東及び九州の森林管理局で国有林の業務に携わり、各地の特色のある素晴らしい国有林に接し、それぞれの勤務地において職場や地域の皆様との素晴らしい出会いに恵まれ、公私ともに楽しく、充実した日々を過ごすことができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

九州森林管理局に着任したのは熊本地震から1年後の平成29年4月で、まだ震災の爪痕がいたるところで残っており、震災後の職員の皆様の様々なご苦労を見聞きました。

昨年7月の熊本南部を中心とする豪雨災害を始め、地震、噴火、台風、豪雨による山地災害が頻発しており、これまでの想定を超える自然災害が発生するリスクや不安が高まっています。こうした状況の中

熊本城の姿を毎日のように局から眺めていましたが、天守閣も立派に再建し、この3月には新阿蘇大橋も完成し、いよいよこれから復興が本格化していくというこの時期に九州森林管理局で定年を迎えること、退職前の4年間を九州で過ごし、管内の各地で貴重な体験をさせていただいたことを有り難く思っています。

近年は、まだ記憶に新しい昨年7月の熊本南部を中心とする豪雨災害を始め、地震、噴火、台風、豪雨による山地災害が頻発しており、これまでの想定を超える自然災害が発生するリスクや不安が高まっています。こうした状況の中



前 業務管理官  
林 視

【当）】  
宮崎森林管理署長  
米田雅人【東北局仙台森林管理署長】  
宮崎森林管理署都城支署長  
塚本 徹【総務企画部企画調整課監査官】  
宮崎南部森林管理署長  
福嶋貢史【北海道局宗谷森林管理署長】  
沖繩森林管理署長  
伊藤香里【農村振興局農村政策部地域振興課課長補佐（調査調整班担当）】  
総務課長  
岩下降徳【經理課長】  
企画調整課長

一重喬一郎【国土交通省住宅局住宅生産課木造住宅振興室課長補佐】  
經理課長  
高村俊郎【専門官（債権管理担当）】  
保全課長  
有園敏行【都城支署長】  
森林整備課長  
峰内浩昭【保全課長】  
総務企画部企画調整課監査官  
杉野隆二【福岡署次長】  
総務企画部専門官（契約適正化担当）  
溝越啓二【熊本署次長】  
総務企画部専門官（債権管理担当）

中村公治【森林整備部企画官（供給戦略担当）】  
総務企画部総務課企画官（安全衛生担当）  
久保幸治【総務企画部専門官（契約適正化担当）】  
森林整備部企画官（間伐推進担当）（宮崎森林管理署都城支署）  
江藤幸二【計画保全部自然遺産保全調整官】  
森林整備部企画官（供給戦略担当）  
高木周一【熊本南部署次長】  
森林整備部企画官（技術開発担当）  
濱田辰広【森林技術・支援

大や頻発する自然災害などに懸命に対処しています。そして、2年前、部長室の窓の向こうには、熊本の本のシンボルである熊本城が一日も早く元の姿を取り戻すべく、工費用足場がくみ上げられ、数本のクレーンが動いていました。今は、その足場やクレーンは撤去され、威厳を取り戻した天守閣の姿を見ることができません。私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大

七ノタ一所長【森林整備部企画官（自然再生担当）】  
長淵 直【森林整備部企画官（間伐推進担当）】  
西表森林生態系保全七ノタ一所長  
下田勝也【森林整備部企画官（自然再生担当）】  
森林技術・支援七ノタ一所長  
草野秀雄【西表森林生態系保全七ノタ一所長】  
計画保全部自然遺産保全調整官  
田丸義次【近畿中国局三重森林管理署次長】  
計画保全部専門官（災害調整担当）  
山崎 泉【宮崎署次長】  
計画保全部野生鳥獣管理指導官  
本田勝美【宮崎北部署総括事務管理官】  
計画保全部治山課災害対策専門官（芦北治山事業所駐在）  
片山雅明【林野庁森林整備部治山課山地防災緊急対策官（九州局治山課付）（芦北治山事業所駐在）】  
計画保全部治山課災害対策専門官  
高津忠孝【大隅署森林技術指導官】  
福岡署次長  
古澤竜喜【沖繩署次長】  
佐賀署次長

小野貫行【計画課課長補佐】  
熊本署次長  
志賀栄一【佐賀署次長】  
熊本南部署次長  
橋口康朗【計画保全部野生鳥獣管理指導官】  
宮崎署次長  
渡邊健一郎【經理課課長補佐】  
北薩署次長  
古川浩児【大隅署次長】  
大隅署次長  
後藤寿也【森林整備課課長補佐】  
沖繩署次長  
松岡良二【治山課課長補佐】  
林野庁国有林野部管理課総務班庶務係長  
井 崇行【保全課】  
林野庁国有林野部業務課治山班保安林整備係長  
野田誠治【森林整備課】  
林野庁林政部企画課（税制班税制第2係）  
前田悠貴【西都児湯署】  
林野庁林政部木材利用課（貿易第1班貿易係）  
角田まり絵【都城支署】  
林野庁林政部林政課総務班庶務係長（九州局森林整備課付）  
宮川茂則【林野庁林政部林政課総務班庶務係長】  
計画保全部（計画課）  
梶原 勝【林野庁研究指導課（森林除染技術指導班計画指導係）】

## ◆退任挨拶◆お世話になりました

昭和58年（1983年）4月、熊本営林局（当時）に採用され、その後、全国各地で勤務し、定年



前 総務企画部長  
秋岡 陽一郎

退職までの最後の2年間は、再び九州森林管理局で勤務できたことともうれしく思っています。そして、これまで、それぞれの勤務地の上司、同僚、職員、関係者の皆さまにご指導、ご協力等いただきましたことこの場

をお借りして御礼申し上げます。  
2年前、部長室の窓の向こうには、熊本の本のシンボルである熊本城が一日も早く元の姿を取り戻すべく、工費用足場がくみ上げられ、数本のクレーンが動いていました。今は、その足場やクレーンは撤去され、威厳を取り戻した天守閣の姿を見ることができません。私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大

を乗り越えて御礼申し上げます。  
2年前、部長室の窓の向こうには、熊本の本のシンボルである熊本城が一日も早く元の姿を取り戻すべく、工費用足場がくみ上げられ、数本のクレーンが動いていました。今は、その足場やクレーンは撤去され、威厳を取り戻した天守閣の姿を見ることができません。私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大

森林技術総合研修所総務課

宮里有紀【北薩署】

関東局山梨森林管理事務所

庄司拓平【大分西部署】

近畿中国局島根署主任森林整備官

佐藤 剛【治山課】

近畿中国局広島署

後藤玲奈【福岡署】

内閣府沖繩総合事務局農林水産部林務水産課課長補佐

曲瀬川淳一【沖繩署】

総務課研修主任官

甲斐孝生【総務課】

総務課広報主任官

本田博邦【総務課】

総務企画部

磯崎愛永【近畿中国局森林整備部】

企画調整課森林情報指導官

下村治雄【宮崎署】

企画調整課企画調整係長

川口 理【東北局保全課計画処分係長】

企画調整課

藤崎恵莉佳【国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場連絡調整課】

經理課課長補佐

酒井昭則【熊本署】

計画課課長補佐

中村雄二【長崎署】

計画課企画官（森林資源評価担当）

廣石 功【佐賀署】

計画保全部生態系管理指導官

奥田博司【熊本署】

計画課経営計画官

北川賢太郎【うきは市】

計画課経営計画官

藤原敬士【森林整備課】

計画課経営計画官

藤川涼一【北薩署】

計画課

梶原 勝【林野庁研究指導課】

保全課測定技術指導官

森 浩【長崎署】

保全課企画係長

松本知子【経理課】

保全課森林利用係長

松本慎剛【鹿児島署】

保全課測定係長

後藤一哉【屋久島署】

治山課課長補佐

井 勝吉【治山課】

万前隆幸【宮崎署】

入江和浩【都城支署】

川越文生【都城支署】

井上隆裕【宮崎南部署】

寺田雄一郎【宮崎南部署】

中川邦男【宮崎南部署】

築川伸一【北薩署】

堂園浩陸【北薩署】

森永敏朗【北薩署】

嶋崎国浩【大隅署】

煤本憲三【鹿児島署】

山部国広【屋久島森林生態系保全センター】

# 《退職》長い間「苦労をまですた

## 3月31日付定年退職

林 祝（業務管理官）

秋岡陽一郎（総務企画部長）

山部義臣（総務課）

渡邊昭博（企画調整課）

木林静夫（森林整備課）

山村晃弘（森林整備課）

吉田真佐也（森林整備課）

岩下哲博（技術普及課）

山上哲幸（福岡署）

村田孝彦（長崎署）

鹿田純吉（長崎署）

祐野誠治（長崎署）

杉中邦浩（熊本署）

緒方省一郎（熊本南部署）

高倉邦彦（大分署）

引地修一（大分署）

村上利晴（大分西部署）

佐々木修身（大分西部署）

穴山信二（宮崎北部署）

山本博美（宮崎北部署）

飯干好徳（宮崎署）

万前隆幸（宮崎署）

入江和浩（都城支署）

川越文生（都城支署）

井上隆裕（宮崎南部署）

寺田雄一郎（宮崎南部署）

中川邦男（宮崎南部署）

築川伸一（北薩署）

堂園浩陸（北薩署）

森永敏朗（北薩署）

嶋崎国浩（大隅署）

煤本憲三（鹿児島署）

山部国広（屋久島森林生態系保全センター）

治山課設計指導官（芦北治山事業所駐在）

松永和久【近畿中国局岡山署（九州局治山課付）芦北治山事業所駐在】

治山課治山技術官（芦北治山事業所）

泊脇将季【東北局三八上北署（九州局治山課付）（芦北治山事業所駐在）】

治山課治山技術官（芦北治山事業所）

中村健一【福岡署（九州局治山課付）（芦北治山事業所駐在）】

治山課治山技術官（芦北治山事業所）

三浦英泰【北海道局後志署（九州局治山課付）（芦北治山事業所駐在）】

治山課治山技術官（鳥栖治山事業所）

高倉博文【長崎署】

治山課治山技術官（鳥栖治山事業所）

宮崎 海【治山課】

治山課企画係長

和田 治仁【林野庁業務課】

治山課民有林治山係長

吉田幸一【治山課】

治山課保安林係長

西山太英【治山課】

治山課治山技術官

高森公章【北薩署】

治山課治山技術官

松田 遥【熊本署】

治山課

木下昂大【大分署】

治山課

長谷川京香【企画調整課】

屋久島森林生態系保全センター

森 晴可【長崎署】

西表森林生態系保全センター

春田魁登【佐賀署】

森林整備課課長補佐

有吉正司【大分西部署】

森林整備課分収林係長

猪寫真由美【企画調整課】

森林整備課路網計画係長

藏富英典【宮崎南部署】

森林整備課路網整備係長

藏原 剛【熊本署】

資源活用課生産係長

本田末広【大分西部署】

技術普及課技術開発主任官

古閑智之【大分署】

森林技術・支援センター副所長

中川裕司【技術普及課】

福岡署地域林政調整官

山邊隆広【森林整備部自然再生指導官（西表森林生態系保全センター）】

福岡署主任事務管理官

林田 誠【沖繩署】

福岡署事務管理官

藤原洋太【宮崎北部署】

福岡署主任森林整備管理官

園田泰夫【鹿児島署】

福岡署森林整備官

小野稔和【福岡署】

福岡署地域技術官



前 計画保全部長  
井口 真輝

私にとって九州局に着任してからしばらくの間、戸惑いや驚きを感じることも少なくありませんでした。あらためて振り返ってみると、周りの職員も同様な思いをしていたのかもしれない。それでも多くの皆さんに支え

ました。また、単身赴任ということもあり、コロナ禍の前までは多くの皆さんと懇親を深める機会をいただき、私にとって貴重な思い出となりました。甘くて濃いお醤油や米焼酎もおいしく感じるようになりました。

3年間たいへんお世話になりました。とうございました。

# 転任挨拶 お世話になりました

私にとって九州局は、15年ぶりの地方勤務、初めての局勤務ということもあり、

着任してからしばらくの間、戸惑いや驚きを感じることも少なくありませんでした。

また、単身赴任ということもあり、コロナ禍の前までは多くの皆さんと懇親を深める機会をいただき、私にとって貴重な思い出となりました。

3年間たいへんお世話になりました。とうございました。

- 東條衣里子【宮崎署】
- 福岡署地域統括森林官
- 坂田博之【都城支署】
- 福岡署森林官
- 一山隼人【福岡署】
- 佐賀署地域林政調整官
- 植薄和彦【大分署】
- 佐賀署主任事務管理官
- 佐藤和子【福岡署】
- 佐賀署主任森林整備官
- 中島純也【資源活用課】
- 佐賀署森林整備官
- 山部清人【佐賀署】
- 佐賀署森林整備官
- 草野 誠【大分署】
- 佐賀署地域技術官
- 高倉大斗【鳥栖治山事業所】
- 佐賀署森林官
- 志戸祐二【屋久島署】
- 佐賀署森林官
- 石松伸二【宮崎南部署】
- 長崎署森林技術指導官
- 一口竜也【屋久島署】
- 長崎署総括事務管理官
- 山口昌幸【福岡署】
- 長崎署事務管理官
- 岩下治喜【計画課】
- 長崎署主任森林整備官
- 吉村浩一【屋久島署】
- 長崎署治山技術官
- 加来尚貴【治山課】
- 長崎署
- 片野翔太【鹿児島署】
- 長尾楓花【大分西部署】
- 長崎署首席森林官
- 石田義幸【佐賀署】
- 長崎署首席森林官
- 深田成人【鹿児島署】
- 長崎署森林官
- 福泉裕介【大分西部署】
- 熊本署総括地域林政調整官
- 内村圭一【森林技術・支援セクター】
- 熊本署総括事務管理官
- 山下誠吾郎【林野庁管理課】
- 熊本署主任森林整備官
- 市原増雄【長崎署】
- 熊本署主任森林整備官
- 後藤誠也【国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総
- 合研究所林木育苗セクター九州育種場育種課】
- 熊本署治山技術官
- 羽野誠一郎【宮崎署】
- 熊本署治山技術官
- 和田弥己【鹿児島署】
- 熊本署首席森林官
- 塚本順一【熊本署】
- 熊本南部署森林整備官
- 長口棟博【熊本南部署】
- 熊本南部署総括治山技術官
- 木倉浩二【治山課】
- 熊本南部署地域統括森林官
- 河野康治【熊本南部署】
- 熊本南部署首席森林官
- 内場 司【宮崎北部署】
- 熊本南部署首席森林官
- 藤井正明【熊本南部署】
- 熊本南部署森林官
- 三國稔典【熊本南部署】
- 熊本南部署森林官
- 寺地祐人【熊本南部署】
- 熊本南部署
- 野田真治【大分西部署】
- 大分署森林技術指導官
- 武原龍行【保全課】
- 大分署総括事務管理官
- 平田和之【佐賀署】
- 大分署事務管理官
- 大久保和人【大分西部署】
- 大分署総括森林整備官
- 武藤良助【大分西部署】
- 大分署森林整備官
- 迫本翔太【大分署】
- 大分署森林整備官
- 歌野昭彦【近畿中国局治山
- 課（近畿中国局広島署付）
- 大分署首席森林官
- 友栗 誠【屋久島署】
- 大分署森林官
- 村上 学【宮崎北部署】
- 大分西部署総括事務管理官
- 白石裕次【熊本署】
- 大分西部署主任事務管理官
- 蒲池勝也【大分署】
- 大分西部署森林整備官
- 宮島貴文【佐賀署】
- 大分西部署地域統括森林官
- 瀬高孝男【近畿中国局滋賀署】
- 大分西部署首席森林官
- 橋本賢一【長崎署】
- 大分西部署森林官
- 井上欣勇【企画調整課】
- 大分西部署森林官
- 伊藤明雄【熊本南部大分西部署】
- 西田卓矢【熊本署】
- 宮崎署地域林政調整官
- 吉川慶一【鹿児島署】
- 宮崎署森林技術指導官
- 吉田弘幸【北薩署】
- 宮崎署主任事務管理官
- 河合さつき【都城支署】
- 宮崎署事務管理官
- 川野幸三【屋久島署】
- 宮崎署総括森林整備官
- 山川祐一【沖繩署】
- 宮崎署主任森林整備官
- 阿部 一元【都城支署】
- 宮崎署地域技術官
- 橋本暁寛【佐賀署】



前 森林整備部長  
久保 芳文

# ◇転任挨拶◇お世話になりました

今回内示を頂き、中部森林管理局岐阜森林管理署長に異動になりました。2年間の間、皆様方に大変お世話になりました。

もともとが九州森林管理局採用で、局計画課勤務をスタートに4署で計8年間の勤務経験がありました。今回は26

赴任した年の令和元年度は、市町村が所有者に代わって公益的機能を発揮できなくなった森林や経営意欲をなくした森林所有者の森林について森林整備を行う森林経営管理制度がスタートするとともに、その財源として森林環境譲与税の市町村への交付が開始された民有林行政にとっては一大転換期を迎える年で、国有林にも協力が求められています。一般会計化にあたって国有林には、

行うことが役割として位置づけられ、そのフィールドと組織力を活かして、振興と発展に貢献することが求められていたことから、森林経営管理制度は民有林をサポートする新たな国有林の力をいよいよ発揮できる機会です。職員の皆さんには、地域からの期待に応え信頼される国有林になれるよう引き続き取り組みをすることをお願いいたします。

最後に、九州森林管理局が、九州地域の森林・林業・木材産業の発展及び変革の先頭に立って貢献されることを祈念いたしますとともに、皆様方の御健勝を心よりお祈り申し上げます。転任のご挨拶とさせていただきます。

宮崎署

岡 杏奈【林野庁管理課】

宮崎署

山口 聖【屋久島署】

都城支署主任事務管理官

河本正人【宮崎署】

都城支署事務管理官

南崎亜紀子【宮崎南部署】

都城支署主任森林整備官

森 俊之【都城支署】

都城支署主任森林整備官

石本敏隆【福岡署】

都城支署地域技術官

石綿深志【沖縄署】

都城支署

片桐琴羽【計画課】

都城支署首席森林官

吉海裕和【北薩署】

都城支署首席森林官

村木信一郎【都城支署】

都城支署森林官

田村実加【総務課】

宮崎北部署総括事務管理官

深田隼人【宮崎南部署】

宮崎北部署

高橋陽介【長崎署】

宮崎北部署首席森林官

岩上 勇【西都児湯署】

宮崎南部署森林技術指導官

森 正文【宮崎署】

宮崎南部署総括事務管理官

後藤彰彦【林野庁業務課】

宮崎南部署事務管理官

吉田敏也【都城支署】

宮崎南部署主任森林整備官

加藤省三【西都児湯署】

宮崎南部署森林整備官

小中原 真【宮崎南部署】

宮崎南部署地域技術官

吉田 航【関東局山梨森林管理事務所】

宮崎南部署地域技術官

三國卓裕【宮崎南部署】

宮崎南部署首席森林官

木村 通【大隅署】

宮崎南部署森林官

清田泰志【長崎署】

宮崎南部署森林技術員

河野賢一【宮崎南部署】

西都児湯署主任森林整備官

藤田康孝【宮崎署】

西都児湯署総主任森林整備官

谷山亜紀子【都城支署】

西都児湯署森林整備官

木崎真一郎【長崎署】

西都児湯署

石原春菜【大隅署】

西都児湯署首席森林官

淀水義文【北薩署】

鹿児島署主任地域林政調整官

松本正三郎【宮崎南部署】

鹿児島署総括事務管理官

萩岡茂治【都城支署】

鹿児島署主任森林整備官

坂本法博【宮崎南部署】

鹿児島地域技術官

山口利明【鹿児島署】

鹿児島署

赤星光希【北薩署】

鹿児島署

年ぶりの九州勤務でした。局では勿論のこと各署へ出張した際に、若かりし頃に一緒に働いた懐かしい方々と再びお目にかかれたこともいい思い出となりました。

最悪の状況は何か乗り越えられ、木材価格も前年度並みに回復し安心して居るところです。この苦難を経験できたことは自身にとって貴重な財産となりました。まだまだ木材需要の先行きは不透明な状況にありますが、令和3年度の事業は年度当初から計画どおりに進められることになりました。これも局及び署等の担当者のご尽力によるものであり、この紙面をお借りして感謝申し上げます。



# 新規採用者紹介

黒田優衣 (総務課)  
 坂田晃一 (企画調整課)  
 東谷優太 (経理課)  
 西村颯太 (計画課)  
 須寄翔太 (資源活用課)  
 石川大智 (福岡署)  
 中村 帝 (長崎署)  
 塩澤 翔 (熊本署)  
 池部 蓮 (熊本南部署)

上田大樹 (大分署)  
 浅田実穂 (大分西部署)  
 濱崎健至 (都城支署)  
 濱元海斗 (宮崎北部署)  
 濱本 桜 (宮崎南部署)  
 中嶋啓介 (西都児湯署)  
 矢部岳広 (鹿児島署)  
 田島 尚 (北薩署)  
 木下美希 (大隅署)

西村知樹【治山課】  
 鹿児島地域統括森林官  
 鹿児島署  
 沖田寿浩【鹿児島署】  
 鹿児島署首席森林官  
 戸島章治【北薩署】  
 鹿児島署森林官  
 古川翔太【計画課】  
 北薩署森林技術指導官  
 上別府 悟【熊本南部署】  
 北薩署主任事務管理官  
 猪寫憲治【大分西部署】  
 北薩署主任森林整備官  
 白内慎哉【北薩署】  
 北薩署主任森林整備官  
 橋本敏一【北薩署】  
 北薩署森林整備官  
 中村 凌【西都児湯署】  
 北薩署地域技術官  
 塩崎暢彦【都城支署】  
 北薩署地域技術官  
 平生貴成【鹿児島署】

北薩署  
 松井涼太【屋久島署】  
 北薩署  
 山本佑主【宮崎北部署】  
 北薩署  
 伴 遼太郎【資源活用課】  
 北薩署地域統括森林官  
 福田錦吾【熊本南部署】  
 北薩署首席森林官  
 川野博之【熊本南部署】  
 大隅署森林技術指導官  
 福山親幸【大隅署】  
 大隅署総括森林整備官  
 園田清隆【福岡署】  
 大隅署主任森林整備官  
 福岡直樹【北薩署】  
 大隅署首席森林官  
 飯星光吉【大隅署】  
 大隅署森林官  
 坂本淳也【林野庁管理課】  
 屋久島署森林技術指導官

倉本雅則【内閣府沖縄総合事務局農林水産部林務水産課】  
 屋久島署事務管理官  
 藤井武史【福岡署】  
 屋久島署主任森林整備官  
 黒田伸博【西都児湯署】  
 屋久島署主任森林整備官  
 柿本一宏【森林整備課】  
 屋久島署森林整備官  
 木村慈延【環境省自然環境局国立公園課】  
 屋久島署地域技術官  
 都 賢太郎【近畿中国局鳥取署】  
 屋久島署  
 松永一彦【企画調整課】  
 屋久島署森林官  
 古川拓也【屋久島署】  
 沖縄署主任事務管理官  
 井本清水【福岡署】  
 沖縄署総括森林整備官  
 西 文彦【保全課】  
 沖縄署主任森林整備官  
 廣田俊之【沖縄署】  
 沖縄地域統括森林官  
 田中和利【福岡署】  
 沖縄署森林官  
 小崎凌平【沖縄署】  
 沖縄署森林官  
 藤井佑介【宮崎南部署】  
 沖縄地域統括森林官  
 奥田絢子【沖縄署】  
 (担当)総務課

**令和2年度「佐伯市傾山地域森林整備推進協定」運営会議を開催**

【大分森林管理署】3月5日、大分森林管理署会議室において、令和2年度「佐伯市傾山地域森林整備推進協定」運営会議を、大分県農林水産部森林整備室、森林研究・整備機構 森林整備センター 大分水源林整備事務所及び大分森林管理署の三者、総勢13名が出席して開催しました。



冒頭、挨拶される猪島署長

はじめに、猪島明久大分森林管理署長から「本運営会議は、諸般の事情で2年振りの開催となります。本日は事業の期待してあります」と挨拶を述べました。

運営会議は、植薄和彦森林技術指導官が司会進行を務め、各機関から本年度の事業実績、次年度の事業計画などの報告を行いました。

その後の意見交換では、大分県森林整備室から、立木販売に伴う路網の円滑な活用、協定区域対象以外の事業計画等についても情報共有の場を設定願いたい旨の意見が発表されました。また、大分水源林整備事務所からも定例的な開催も視野に入れて積極的な会



運営会議の様子

議開催をお願いしたい旨の意見がだされました。

今回の会議で出された意見を踏まえ、今後は頻繁に情報共有を図るなど、各機関が抱える課題、事業計画の円滑な推進のために、今後も取り組んでいくこととしました。

## 安全会議及び職員能力向上勉強会を開催

【熊本森林管理署】3月8日、宮崎県日向市にある中国木材(株)日向工場において、日

本国内でも有数の最新鋭・最大規模の製材工場等を視察することにより、当署の安全衛生対策と職員の木材加工技術に関する知識の向上を目的として、本年度の安全会議と職員の能力向上勉強会を、当署職員18名が参加して開催しま

した。

当日は、中国木材(株)の折戸宏之係長と石井学係長の案内により、まず会議室で中国木材の事業概要と日向工場の概要説明に続いて、中国木材の安全衛生管理体制、安全衛生活動、労働災害発生状況、

災害事例等について説明を受けました。

その後、日向工場内の製材棟、養生棟、乾燥施設、原木土場等を視察し、そのほとんどがオートメーション化された工場内の各施設と、塵一つ落ちておらず綺麗に整理整頓



## 岡崎 郡太さん

昭和30年代、私が小学生のころ、父は農業の傍ら山林労働者として植林地の下刈りなどをして現金収入を得ていま



### 二ホンミツバチ飼育箱

た。その影響があつてか、いったん都会に就職した後、事情があつて帰郷した私と山林との深い関りが始まったのです。

まず趣味として、銃所持許可証と狩猟免許を取得しました。そして、もう一つの趣味が、二ホンミツバチの飼育です。標高9

ただきました。森林管理署の職員の方といえは、堅いイメージがあり取っ付きにくい感じがしていましたが、申請から現地確認まで本当に親切に対応していただき、それまで抱いていたイメージを完全に払拭することができました。

応募した理由は、趣味を活かさせてもらっている国有林に対して、微力ながら何らかのお手伝いができるならと考えてのことです。体力的に国有林との関わりが難しくなるまで、趣味を活かし国有林とともに生きていけたら最高です。

(熊本県球磨郡在住)

# 国有林に趣味を活かす

季折々の素晴らしい景色を堪能することができるよう切に願っています。

最後になりましたが、私が国有林モニターに

した。その後、町有林の山林監視員の仕事に就き、私を高校まで出してくれたのです。その関係で私にとって山林はとても身近なものでした。一例をあげますと、仕事から帰った父が自慢げに宝石のようなタマムシを手渡してくれたたり、

て初めて自分で捕獲したイノシンを病床の父に食べさせてあげることができましたし、有害鳥獣駆除隊員として現在まで国有林内も含めて年間を通してシカやイノシシの駆除に汗を流しています。

また最近までの6年間、県00mの国有林内に、二ホンミツバチの飼育箱を置いて飼育しています。もちろん森林管理署の使用許可を得たうえで設置している訳ですが、使用許可申請にあたっては、地元駐在の森林官(現在は退職)の方に親身になってお世話い

育場所も、九州を襲った令和2年7月豪雨災害の影響で、国有林内の林道はいたるところで寸断され通行不能の状態が続いています。完全に復旧されるのには、相当の年月を要すると思いますが、一日も早く復旧され以前のように四



製材工場内の視察の様子

された工場内に職員も驚いた様子でした。当署としては、日頃見るこ



安全関係の説明の様子

とが出来ない大型製材工場の安全衛生面と木材加工技術の知見を得ることが出来て、今後当署の業務を推進する上で非常に参考になりました。

**北海道大学大学院生が思わず「ウオー」**

【宮崎南部森林管理署】北海道から屋久島入りし、林分密度試験林、綾照葉樹林、椎葉日田林業を回る工程で当署を訪れた北海道木材産業協同組合内田副会長、北海道大学大学院農学研究院内田准教授と大学院生併せて12名を、令和3年3月8日に当署職員3名で林分密度試験林を案内しました。



林分密度試験林説明の様子

試験地の中心地で上空の空間の様子や、植栽密度による径級や下層植生の違いを見学し、植栽の適正本数などについて質問があり、林業についての関心の高さが伺われました。

当日はあいにくの曇り空ではありましたが、試験地の中心地で記念写真を撮ったところ上空のポツンと穴が空いた部分と一緒に写った写真に、



皆さん「ウオー」と感動されています。これを機会に、今後社会に出られる時に森林・林業・自然に興味を持ち続けて頂き、これからの日本の持続可能な森林経営（SDGs）のための応援団になって頂きたいと思えます。

**「鮑田の森」の記念植樹等に参加**

【熊本森林管理署】3月6日、南阿蘇村久木野の分収造林契約地「鮑田の森」において、鮑田地区青少年健全育成連絡協議会・鮑田の森を育てる会、熊本市立鮑田中学校主催による第22回目となる記念植樹と保育作業が、鮑田の森を育てる会、鮑田中学校教職員・保護者の有志32名で実施され、当署からも川畑充郎署長が参加しました。



記念植樹等に参加された皆さん

同協議会等は、青少年の健全な育成、明るく住みよい鮑田の地域づくりなどを図ることを目的として、平成12年に「鮑田の森」を設定し森林づくりを通じた社会活動や環境教育活動に取り組み、これまでに国土緑化推進機構や熊本県、肥後の水とみどりの愛護基金等から表彰を受けており、昨年6月にはこれまでの20年間の歩みを取り纏めた「鮑田の森20周年記念誌」を刊行されました。

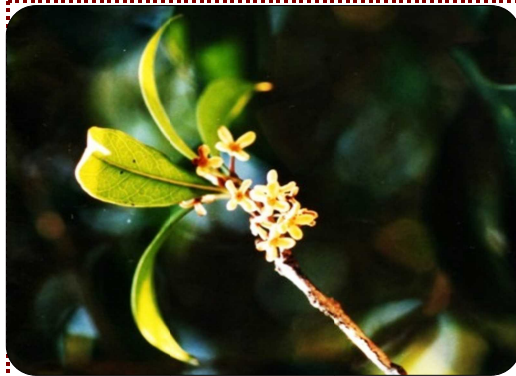
当日は、主催者挨拶に続いて川畑充郎署長が「他の模範となり、鮑田の森を目標にする団体や学校が増えるように



シカ防護ネット設置の様子

広告塔の役割を担って頂くように期待します」と来賓挨拶しました。その後参加者は、飽田中学校2年生の立志記念として6本のもみじを植樹するとともに、蜂の誘引捕獲器の取り替え作業、枯損木等の除去作業を行いました。

なお今回の活動には、新型コロナウイルス感染症の影響で飽田中学校の生徒は残念ながら参加できませんでしたが、これまで2200名を超える卒業生が活動に参加しており、当署としてもこの活動を引き続き支援していく考えです。



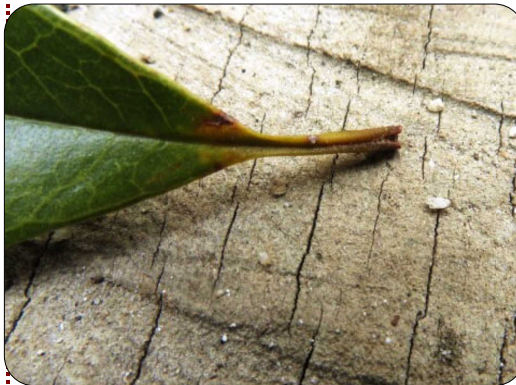
だいぶ前になるが綾のKさんから見慣れない樹木がある、同定してくれないかと電話があった。Kさんが迷うなら特別な樹木に違いないと思って、すぐに現地へ行って、すぐに見ると葉の先葉を取ってみると葉の先にわずかに鋸歯があり産地が「綾」であることからウスギモクセイと同定した。

キンモクセイ、ギンモクセイは日本へ渡来した時、雄木だけだったので



現在でも果実は結実しません。しかしウスギモクセイは、日本に雄木もあり雌木もあることから果実が実ります。(熊本県植物誌)

葉は柄があり対生、長楕円形ないし広披針形で鋭尖頭、基部は鋭形、全縁または多少鋸歯が見られます。革質で無毛、上面は緑色で光沢があり、下面は淡緑色、主脈は淡緑色で下面に隆起し、葉柄には溝があります。溝



の判定は「凹んで」いるのか、「溝」なのかの判定は難しく、私はいまだに判定できません。(ギンモクセイは柄が「凹んでいる」)

花は10月に咲き、両性花または雌花を葉腋に散形状に束生し、花冠はキンモクセイなどと比較すると白黄色(レモン色)で深く4裂しています。

森林インストラクター  
安染 行雄

都会の中の憩いの森  
監物台樹木園の  
多様な植物

161  
ウスギモクセイ(モクセイ科)



また々終息が見えない新型コロナウイルス感染症だが、毎年のように季節は移りかわりぼかぼかとした春がやってきた。もしこの季節という毎年訪れるものが訪れなくなったらどうなるのだろうか。などと変なことを考えてしまう。▼「メジロ」や「ウグイス」がさえずる季節。近所のおじいちゃんは「メジロ」の餌となるミカンを庭先の木の枝に挿し、「メジロ」が飛んでくるのを楽しみしているそうだ▼「タラノキ」の新芽がおいしい季節。食料品売り場に行けば揚げた「タラの芽」として販売してある。近所のおじいさんは、昔この「タラの芽」を採るため、「タラノキ」に気づかれないように根元まで近づき、そして一気に「タラノキ」の幹をたたくと「タラの芽」が落ちてきたそうだ▼山菜の季節。近所のおばあちゃんは小学生の頃、友達と一緒に山に行き「ワラベ」を採り、1kgあたり約50円で売り、そのお金でお菓子を買っていたそうだ▼毎年変わらない春を迎えているが、ある書物によると春夏秋冬といった四季がはっきり分かれているのは日本だけとのこと。この四季を守っていくのはやっぱり「森林・林業関係者」ではないかなと勝手に思っています。(み)